

丁寧に指導したいシリーズ

## 子どもの言葉を板書しよう

10/7 に発信しました「幼児教育のニュース」の取材中、ある先生の「**子どもの気づき、つぶやきの中にある宝物を見つけるのが楽しみなんです。**」という声を聞きました。幼児の環境（例、園庭の砂場に置くもの、先生の声かけ等）を整え、こんな気づき・こんなつぶやきが出て欲しいと仕掛けるわけですが、その気づき・つぶやきや、予想以上の気づき・つぶやきが出てきたときは、「きた〜」と心で叫ぶそうです。「**でも、それら!?!を、どのように広げたり、深めたりするかが難しいです。**」と続けられました。

### 1. 子どもの感じたこと、考えたことを板書する

第三吾嬭小学校の3年生の授業(右記)  
(2位数) × (1位数) の意味・立式・計算のしかたの学習です。習熟度別少人数指導(ホップ、ステップ、ジャンプ、チャレンジ)の**ジャンプグループ**です。



教室のテレビには、本23冊が入った→はこが映し出されて、問題から23×3が立式されました。

次に、先生は「**昨日のかけ算と(20×4、200×4、※記述はしない)違うところがありますか**」と問い、昨日のノートを見ながら今日の勉強での「めあて」をノートに書かせました。

よく一斉指導で、すぐに気付く子どもに言わせて進める授業を見かけます。それでは、いつまでも誰かにヒントを貰い続ける子どもがいます。主体的に考えて書く時間の確保が大切です。

**問題、20×4⇒23×3、かけられる数が広がったことを子ども自ら気づき、23という「きりがいい数でない」かけ算の仕方を考えることを、本時のねらいとしました。**

そして、授業の終わりには、

$$\begin{array}{l} 23 \times 3 \quad \rightarrow \quad 20 \times 3 = 60 \\ \quad \quad \quad \rightarrow \quad 3 \times 3 = 9 \end{array}$$

きりがいい  
数でない

⇒

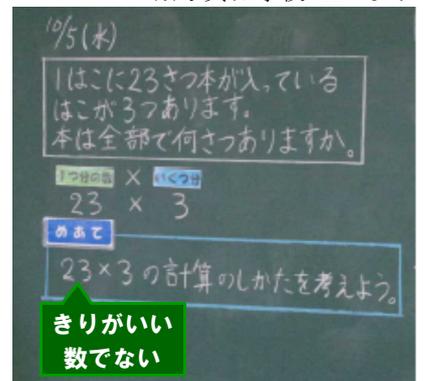
きりがいい  
数

69です。

**C 「きりがいい数でない」かけ算が、「きりがいい数」のかけ算2つに変身して、計算できて、すっきりしました。**

※かけられる数23を20と3に分けてかけ算したことを押さえる。

※写真は学校 HP より



今日の式は23×3なので、きりのいい数でないところが違います。



### 2. 導入の工夫(本時の提案:子どもたちの生活経験から問題場面を設定する)

**ポップグループ**の導入(写真左)は、ケーキのバーゲンセールです。子どもたちは「安〜い」と大歓喜! でも、「バーゲンなので1人様3個です。」で始まりました。

**ステップグループ**の導入(写真右)は、「あずまや」カーテンの中から〜〜〜ラムネの袋菓子が出てきて大歓喜です。

どのグループの授業も、子どもの生活経験から問題場面を設定し、興味・関心をもたせていました。**導入の工夫が、**

**子どもをワクワクさせ、子ども自ら感じる力、考える力、学びに向かう力を育みました。**



### 3. 具体物での操作 ⇄ 半具体物での操作 ⇄ ことば・数・式 ※行ったり来たりする。

子どもたちは、 $23 \times 3$  のかけ算の仕方をお金(左写真)を使ったり、ブロック(右写真)を使ったりして表現しました。

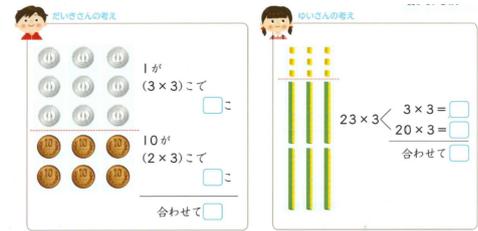
お金を使って考えようよ。1円ちょうだいよ！ 10円も必要だから…



ブロックのがやりやすいよな！ 10のまとまりのやつと…



子どもたちの説明が終わり、そこで、教科書を開いてみると、同じことが書いてあります。「教科書を教えるでなく、教科書で教える」の実践です。



### 4. 多様な考え方を認める ⇒ ところで…一般化の考えに進む

子どもたちは、いくつかの計算の仕方を考えました。考える基は、前々時の  $12 \times 4$  で考えたかけられる数を分けて計算する方法 ( $6 \times 4 + 6 \times 4$  や  $10 \times 4 + 2 \times 4$ ) です。

ステップグループでは、BさんやCさんの計算の仕方を聞いたとき、「すごい！」と拍手が沸きました。その時の子どもたちの気持ちは、「いろいろな計算のしかたを考えられてすごい！」です。

まずは、多様な考え方を認める授業をくり返し行います。自力解決の時間を確保して、主体的な学びを充実させます。

	Aさん		Bさん	いろいろ考えられてすごい！	Cさん
$23 \times 3$	→ $20 \times 3 = 60$		$10 \times 3$	$10 \times 3 = 30$	$10 \times 3 = 30$
	$3 \times 3 = 9$		$13 \times 3$	→ $7 \times 3 = 21$	$10 \times 3 = 30$
	<hr style="width: 50%; margin-left: 0;"/>			$6 \times 3 = 18$	$3 \times 3 = 9$
	69			<hr style="width: 50%; margin-left: 0;"/>	<hr style="width: 50%; margin-left: 0;"/>
				69	69

本実践での子どもの感じ方は、この「すごい！」で時間切れになりました。

教科書では次に「筆算のしかた」に入りますが、次時では、かけられる数を大きくしました。

T 昨日は、 $23 \times 3$  のいろいろな計算の仕方が考えられましたね。 ☆褒めて切り返す。

ところで、いつでも使っていきたい計算の仕方はどれですか。

C …… 沈黙 ※指導を重ねると、子ども自ら「いつでも使える」を意識できるようになります。

T  $53 \times 3$  は、どの計算の仕方がよいですか。

※ここでも、一斉指導ですぐに気付く子どもに言わせて進める授業を見かけます。誰の計算の仕方がよいと判断させ、なぜ、そう判断したかの理由をノートに書かせます。

C 沢山に分けたら、すごいことになってしまいます。←理由

例、53を10と10と10と10と10と3に分けてかけ算するのは面倒だから… 等

C Aさんの仕方、53を50と3に分けて、かけ算する仕方がよいと思います。←結論

この学習の後に、筆算の仕方(一の位をかけ算して、十の位をかけ算して、それらを足す。)の学習をします。より一の位と十の位に分けてかける意味が明確になります。この学習は、小数のかけ算でも生きてきます。「教科書を教えるでなく、教科書で教える」の実践です。

今、求められている「子供一人一人の学びの姿は、教師及び教職志願者が子供の頃に受けてきた授業とは必ずしも一致していない可能性がある。」と中間のまとめ※にあります。

※『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の構築～(中間まとめ) 令和4年10月5日 P.23より

一人一人の子どもを主語にして、主体的・対話的で深い学びを実現するという学習観・授業観への転換を目指す今、その一つの方法として、子どもの言葉を板書することは有効と考えます。

□問い合わせ □ 算数に関するお問い合わせは、以下にご連絡ください。

教育指導員 保坂 登

TEL 03-5608-6621

MAIL hosaka-noboru@office.sumida.ed.jp